

◎ 編集後記 ◎

中国外交の新しい姿について考える材料を提供することが本号における特集の狙いでした。東シナ海や南シナ海における振る舞い方に表われているように、中国の国際社会における行動は強圧的で、他の国々と摩擦を引き起こしやすく、それゆえに成功を取っていないとみられることが多いのですが、そうとばかりは言い切れません。中国は自らが強国であることを求めているだけでなく、国際社会に名誉ある地位を占めたいと強く望んでおり、実際、いくつかの方面においてその「貢献」が国際社会から歓迎されているからです。

中国の「承認願望」は近年ますます強まる傾向にあり、それだけにより多くの問題領域において関与を強めようとしています。そうした関与は安全保障の領域におけるように騒々しいものばかりではなく、どちらかと言えば静かに行なわれ、失敗しているのか成功しているのか評価が難しいものが含まれています。本特集では、あえてそのような評価の難しい領域に光を当ててみました。もちろん、ここに掲載された気候変動、宇宙開発、鉄道、人権といった問題領域の検討だけで十分に包括的だと言うわけにはいきません。もし紙幅に十分な余裕があれば、中国の深海や北極への関与、テロリズムとのたたかいへの関与、世界の金融秩序への関与、PKO（国連平和維持活動）なども取り上げることができたでしょう。中国外交に関する評価は、中国のますます多様化する問題領域における関与の仕方を点検してはじめて均衡のとれたものになるでしょう。

本号には、海外の研究者の論考が2本含まれています。読者はすぐに気が付かれたと思いますが、彼らの中国をみる目は、一般的な日本人の中国をみる目といささか違ってきます。とりわけジェラルド・チャン教授の中国の高速鉄道に対する評価は、楽観主義があまりにも前面に出ており、受け入れがたいもののようにみえるかもしれません。しかし、これもまた台頭する中国に対する世界の眼差しのひとつだと考えるのがよいでしょう。中国外交に対する世界の受け止め方は、警戒と歓迎、恐怖と期待、悲観と楽観の入り混じった複雑なものです。本特集が、日本の中国観をいくらか相対化することに役立つとすれば、この特集の目的は達せられたこととなります。

（編集委員 高橋伸夫）

国際問題 第661号 2017年5月号

編集人 『国際問題』編集委員会

発行人 野上 義二

発行所 公益財団法人日本国際問題研究所 (<http://www.jiia.or.jp/>)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1

虎の門三井ビルディング3階

電話 03-3503-7262 (出版・業務担当)

* 本誌掲載の各論文は執筆者個人の見解であり、執筆者の所属する機関、また当研究所の意向を代表するものではありません。

* 論文・記事の一部を引用する場合には必ず出所を明記してください。また長文にわたる場合は事前に当研究所へご連絡ください。

『国際問題』配本サービス（実費・完全予約制：年10回／5150円、JIIA会員割引有）

配本サービスおよびバックナンバーの購入をご希望の方は、JIIAウェブサイトもしくは上記電話番号にお申し込みください。

* 最近号

16年4月号 焦点：アフリカ—そのさらなる発展への課題

16年5月号 焦点：曲がり角にあるサミット

16年6月号 焦点：TPP合意とアジア太平洋通商秩序の新展開

16年7・8月号 焦点：大統領選とアメリカの内外政策

16年9月号 焦点：日本の国連外交60年

16年10月号 焦点：新局面を迎えた朝鮮半島をめぐる国際関係

16年11月号 焦点：岐路に立つ中東の課題

16年12月号 焦点：深刻化する格差問題

17年1・2月号 焦点：安全保障と技術の新展開

17年3月号 焦点：南シナ海比中仲裁後のアジアの海

17年4月号 焦点：苦悩する欧州